



慎と

昭和三六年九月一二日生

略 歴

四四月月 大阪府大阪市生まれ。大阪教育大学附属池田 小学校、同池田中学校、同高等学校池田校舎 を経て、京都大学法学部を卒業。 司法修習生 判事補任官 以後、東京地裁、最高裁人事局、 外務省条約局、外務省総合外交政策局国連政 等課国際平和協力室、国際連合日本政府代表 部、大阪地裁に勤務し、判事任官後、最高裁 裁判所調査官、最高裁総務局課長、東京高裁 裁判所調査官、最高裁総務局課長、東京高裁 課長を務める。 課長を務める。 課長を務める。 東京高裁事務総長 東京高裁判所判事

昭和六三年

九六九九九二月月月月月

## 最高裁判事就任後日最高裁判所において

行が浅いため、特に記すべきものはありません。「関与した主要な裁判

大学院のでは、 大学のです。最終審としての最高裁の判断の重みとその 判断が国民生活や社会経済活動に与えられた権限と責任は、非常に 重いものがあります。最終審としての最高裁の判断の重みとその 判断が国民生活や社会経済活動に与える影響の大きさに思いを致 し、司法、裁判の果たすべき役割を意識して、一件一件の事件に が国民生活や社会経済活動に与える影響の大きさに思いを致 にった、地方裁判所及び高等裁判所の裁判官として専ら民事 表か、その事案で最も望ましい解決は何かということに悩み、考 え抜いて決断することに裁判官としてのやりがいと充実感を感じてきました。最高裁判所及び高等裁判所のの仕事で大事にしてきたことを最 高裁判所及び高等裁判所での仕事で大事にしてきたことを最 高裁判所及び高等裁判所での仕事で大事にしてきたことを最 の地方裁判所及び高等裁判所での仕事で大事にしてきたことを最 の地方裁判所及び高等裁判所での仕事で大事にしてきたことを最 において決断することに裁判官としてのやりがいと充実感を感じてきました。最高裁判事に就任してから、まだ日が浅いため、関 与した主要な裁判を掲げることができません。しかし、これまで の地方裁判所及び高等裁判所での仕事で大事にしてきたことを最 高裁判所の仕事の中でも貫いて、個々の裁判に取り組んでいきたいと思います。 、いわば垂直方向からの位置付けも的確に認識した上で、考察・ り良い判断をしていくため、一層の自己陶冶に努め、誠実を旨と して、課せられた責任を果たしていきたいと考えています。